

# 浜松市美術館展覧会スケジュール 2026.4 → 2026.12

## 1. 足立美術館展

－横山大観と近代日本画－

4月4日(土)－5月17日(日)



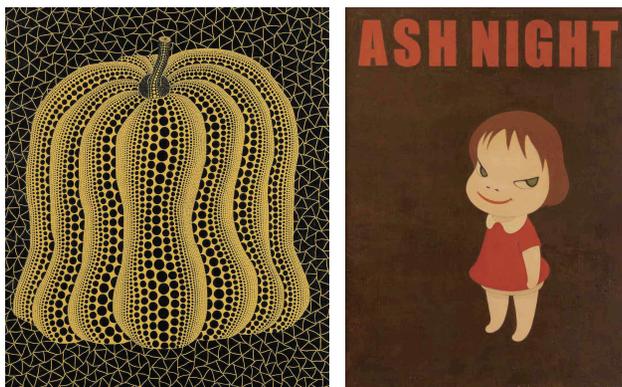
左：横山大観《龍興而致雲》昭和12年（1937） 右上：上村松園「娘深雪」大正3年（1914）  
右下：竹内栖鳳《爐邊》昭和10年（1935） すべて足立美術館蔵

足立美術館は、実業家・足立全康（1899-1990）が収集したコレクションをもとに、1970年に出身地の島根県安来市に開館しました。日本画、陶芸、童画、木彫、漆芸等から成るコレクションのうち、とりわけ近代日本画壇を代表する横山大観の作品は、質・量ともに国内有数のコレクションとして知られています。また、全康の構想のもと、静岡県立浜松工業学校（現：静岡県立浜松工業高等学校）出身の中根金作（1917-1995）が中心となって作庭された広大で美しい日本庭園は、出雲の豊かな自然を借景に四季折々の自然美を表現することで国内外から高く評価されています。本展では、足立美術館が誇る日本画コレクションの中から、静岡県ゆかりの横山大観や竹内栖鳳をはじめ、菱田春草、上村松園、橋本関雪、安田靉彦など明治期から昭和期にかけて活躍した近代日本画の名手たちの作品をご紹介します。

## 2. いま、私は現代アートと出会う

草間彌生、奈良美智、村上隆、  
アンディ・ウォーホル、バンクシー…  
6月20日(土)－8月30日(日)

8月は無休！



左：草間彌生《A. PUMPKIN (Y)》2004年、Acrylic on canvas、53×45.5cm ©YAYOI KUSAMA  
右：奈良美智《Ash Night》2000年、Acrylic on canvas、204.5×155.5cm ©YOSHITOMO NARA

美術館で作品を鑑賞する体験は、ときに私たちの感情を揺さぶり、思いがけない感覚や記憶を呼び起こすことがあります。本展では、そんな「作品との出会い」をテーマに、国内外の39人の作家による約70点の作品をご紹介します。作品は、ある一人のコレクターが蒐集した膨大な現代アートコレクションから、現在につながる多様な表現に目を向け、それを色やかたち、光や線、人、風景と記憶といったシンプルなキーワードを手がかりに構成しました。現代アートを「いまの時代につくられたもの」と捉えると、そこには「いま」を生きる私たちと呼応する視点や問いが潜んでいるかもしれません。マルセル・デュシャン（1887-1986）は、アートとは鑑賞者が思考を巡らせることで完成する、と考えました。本展をとおして、現代アートに馴染みのない方も、作品との対話から思いを巡らせ、アートの楽しみ方そのものを発見する場となれば幸いです。

## 3. みほとけのキセキⅢ

－三・遠・駿 神仏オールスター☆－

10月10日(土)－12月6日(日)



左：国指定重要文化財《薬師如来坐像》嘉応3年（1171）、頼与作、林光寺蔵  
右：国指定重要文化財《阿弥陀如来立像》鎌倉時代 13世紀、新光明寺蔵

みほとけのキセキ、三度。遠州・東三河地域に焦点を当て累計約37,000人を動員した仏像展「みほとけのキセキ」シリーズの第3弾。本展では平安～鎌倉時代の重要文化財の仏像7軀に加え、近年の調査研究で見いだされた新出作品、最新の調査研究で学術的な価値が見直された作品を含む約30軀の仏像・神像を一堂に展示します。また、本展ではこれまでのシリーズとは趣向を変え、駿河地域（静岡市内）の仏像も対象とします。遠州・東三河地域には多くない10世紀の一本彫像、慶派につながる作風を示す鎌倉彫刻等、遠州・東三河地域に伝来する仏像とは一味違う優品を厳選して展示します。遠州・東三河地域の仏像の共通点や仏教文化圏のつながりを実感いただきながら、駿河地域の仏像との比較をとおして、それぞれの造形美をご堪能ください。

### 同時開催

■ 展覧会観覧資料で館蔵品展示もご覧いただけます（館蔵品展示のみのご観覧はできません）。  
■ 会場…浜松市美術館1階小展示室

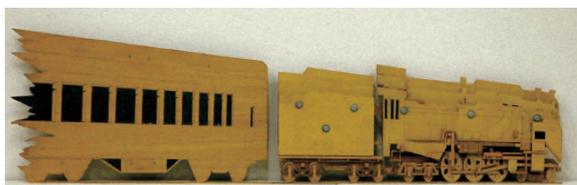
### はまびの現代アート－中村宏展Ⅰ－



中村宏《国鉄品川》1955年 浜松市美術館蔵

館蔵品展示1

### はまびの現代アート－中村宏展Ⅱ－



中村宏《残像車》1995年 浜松市美術館蔵

館蔵品展示2

### はまびのみほとけ －中国・朝鮮の金銅仏から 新収蔵の平安仏まで－

館蔵品展示3



《阿弥陀如来坐像》  
平安時代 12世紀  
浜松市美術館蔵